

pxjahyper パッケージ (v0.2)

八登崇之 (Takayuki YATO; aka. “ZR”)

2012/05/27

1 概要

pLaTeX + hyperref + dvipdfmx の組み合わせで日本語を含む「しおり」をもつ PDF 文書を作成する場合に必要な機能を提供する。

- dvipdfmx 用の「tounicode special」について、内部漢字コードに応じて適切なものを出力する。
- PDF 文字列の中で LICR (`\a` や `\textsection` 等の文字出力の命令) が正しく機能するようにする。ただし、エンジンが pTeX の場合は、out2uni を利用する場合を除き、JIS X 0208 にない文字は出力できない (hyperref の警告が出る)。

前提フォーマット pLaTeX および upLaTeX。

依存パッケージ

- hyperref パッケージ
- hyperref が依存するパッケージ (atbegshi 等)。

2 パッケージの読み込み

`\usepackage` で読み込む。

```
\usepackage[オプション,...]{pxjahyper}
```

使用可能なオプションは以下の通り。

- `tounicode` (既定) : dvipdfmx 用の「tounicode special」を出力する。
- `notounicode` : `tounicode` の否定。
- `out2uni` : out2uni フィルタ (角藤氏製作) を使うことを前提にした出力を行う。
- `noout2uni` (既定) : `out2uni` の否定。
- `bigcode` : upTeX での ToUnicode CMap として既定の UTF8-UCS の代わりに UTF8-UTF16 を用いる。(当該のファイルが存在する必要がある。)
- `nobigcode` (既定) : `bigcode` の否定。
- `dvipdfmx` : dvipdfmx を前提とした動作を行う。

- none : dvipdfmx を前提とした動作を抑止する。現状では、この場合には本パッケージは実質的に何の動作も行わない。
- auto (既定) : hyperref のドライバが dvipdfmx 用ならば dvipdfmx、それ以外は none の動作。

3 機能

「概要」で述べた機能は (オプション設定に応じて) 自動的に実施される。

以下の命令が提供される。

- `\pxDeclarePdfTextCommand{\制御綴}{〈JIS 符号値〉}{〈Unicode 符号値〉}` : PDF 文字列中の `\制御綴` の動作として、指定した符号値の文字を出力することを指定する。
- `\pxDeclarePdfTextComposite{\制御綴}{〈引数〉}{〈JIS 符号値〉}{〈Unicode 符号値〉}` : PDF 文字列中の `\制御綴` (アクセント命令) + `〈引数〉` の動作として、指定した符号値の文字を出力することを指定する。

これらの命令において、符号値は 16 進数で指定する。「JIS 符号値」は `upLATEX` では使われないので省略して (空にして) もよい (或いはそもそも JIS X 0208 にない文字の場合は省略する)。逆に「Unicode 符号値」は `pLATEX` の動作でかつ「JIS 符号値」が指定されている場合は省略してよい。

例えば、以下のように定義しておくと、PDF 文字列中で `\textschwa` (schwa 記号) や `\d{t}` (`ṭ`) が使えるようになる。

```
\pxDeclarePdfTextCommand{\textschwa}{}{0259}
\pxDeclarePdfTextComposite{\d}{t}{}{1E6D}
```